

# AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



農業経営支援課 渡辺彰人

根の張りを良くし、倒伏や秋落ち防止、登熟向上に繋がるため、中干し後は間断かん水を行います。浅水程度に水を入れ、水が無くなっても1〜2日そのままにしておき、再び浅水程度に水を入れる作業を繰り返します。

穂肥を施用する場合は、たん水し3日間は止め水で行ってください。

## 高温障害対策

日中の気温が35℃、夜温が25℃を超える日が続く場合はかけ流しかん水を行ってください。

**高温障害を防ぐため、特に出穂後5〜15日に行うのが効果的です。乳白米の発生を抑えるには、夜間通水で夜の水温を下げましょう。**

## 病害虫対策

○ウンカ類防除(早生…7月下旬・中・晩生…8月上旬)  
フルスロットル箱粒剤のように長期残効性のある箱施用剤を使用していない場合は、出穂前の防除が必要です。

・粒剤…トレボン粒剤  
・液剤…エミリアフロアブル  
○カメムシ防除(1回目…穂揃い期 2〜3回目…前回散布から7〜10日後)

**近年、茶色で大型のイネカメムシの被害が目立ちます。不稔の原因となる他、玄米の基部を吸汁するため色彩選別機で除きにくく等級低下の要因となります。不稔対策には出穂期にも防除が必要です。**

・粒剤…スタークル粒剤、スタークル豆つぶ  
・液剤…スタークル液剤  
※粒剤は、液剤散布より3日前を目安に散布してください。

※液剤は、スズラン噴口や広角噴口でムラなく丁寧に散布してください。